

## 第1回 池田南地区「ふるさとクリーン村」認定記念講演会



# 「農からはじまる里地里山の環境復元」

冬期湛水と不耕起移植栽培の組み合わせによる「生物資源型農業」とは？

### <開催趣旨>

近年、消費者の農産物に対するニーズは、安心・安全・健康な農産物へと移行しています。そのため生産者においても、環境に配慮した栽培方法が求められ、減農薬、減化学肥料によるクリーン農業の推進や有機性資源を循環利用する等さまざまな取り組みが展開されています。このことから多治見市では、多様な生きものが生息し自然豊かな池田南地区を対象に『ふるさとクリーン村構想』を策定し、県の認定を受け、環境と共生する農業を展開していくこととしました。池田南地区ではすでに「(有)廿原ええのお」が中心となって、水田の多様性を守り、安全・安心・健康な農産物を消費者へ提供するために、冬期湛水不耕起栽培に取り組んでいます。『ふるさとクリーン村構想』を受け、この冬期湛水不耕起栽培についての認識を深め、さらに推進していくために、本講演会開催の要望があり、開催の運びとなりました。この趣旨をご理解頂き、多くの方々に参加して頂くよう、ご案内申し上げます。

講師：日本不耕起栽培普及会 会長 岩澤 信夫  
日時：3月14日(月)PM13:00～15:30  
場所：多治見市池田町7 15 池田町屋公民館大ホール  
主催：(有)廿原ええのお 共催：多治見市



甦る水田の生きもの

冬期湛水不耕起栽培水田のメダカ(廿原町)

### 講師紹介

氏名：岩澤 信夫  
出身地：千葉県 現住所：千葉県  
生年(西暦)：1932年

#### <主な経歴>

1980年 POF研究会会長

1983年8月

日本不耕起栽培普及会会長

<http://www.tanbohakase.com> で情報発信中

みんなで無農薬の米づくりに挑戦した  
「田んぼやるまいか」の田植え(廿原町)

### プログラム

- 1 挨拶
- 2 講師紹介 (プロフィール)
- 3 講演 岩澤信夫  
「農からはじまる里地里山の環境復元」
- 4 意見交換



～ “たがやさない田んぼ”からのメッセージ～

(農文協ホームページ「食と農の応援隊」団員紹介文より) <http://www.ruralnet.or.jp/ouenn/ouenn/>

### ■メッセージ

「農は耕すことなり」といいますが、自然界には天地返した土が一つもなく、自然の草木は硬いところに根を伸ばして子孫繁栄しています。耕さない苛酷な環境ではイネは野性化し、水田に根を張って穴だらけにします。耕さないで穴がそのまま残り、不耕起を2～3年続けるとスポンジ状になります。イネが自分の根で耕しているのです。ちょうど地球の表土を作ったのと同じ原理が水田で起こるのです。同時に藻類が大発生し、腐植質として土中に還元されるので、不耕起水田は自前で堆肥を作るとわかったのです。1年ごとに水田が腐植質の堆積や土壌構造の変化によってコメの味が良くなり、収量が安定するとわかりました。

一般の水田は土中でワラを分解しますが、不耕起水田では水中でワラが分解し植物プランクトンが大発生し、非常に水がきれいになるとわかってきました。これを利用して滋賀県・琵琶湖の浄化作戦に農家が立ち上がりました。不耕起水田の溶存酸素量というのは、普通の水田の何倍もあるのです。大量のプランクトンと酸素は水田の豊かな生物量を支えます。ドジョウもタニシも爆発的に増えます。メダカを放すと大繁殖します。佐渡では将来トキの餌場となる水田を作ろうと農家が取り組みを始めました。各地で水鳥のため冬期湛水水田の取り組みが進んでいます。

この冬期湛水(実際にはイネ刈り直後から翌秋のイネ刈り直前までの周年湛水)と不耕起栽培を組み合わせた田んぼは緩速ろ過の浄水場と同じしくみを持ち、水をゆっくりろ過(生物ろ過)していることがわかりました。

近代農業は水田を工業化してきました。基盤整備をし、まるで大都市の上下水道の機構のように用水はパイプライン化し、排水溝はコンクリートの三面張りにし、暗渠排水で水を抜くと翌日に畑になってしまいます。これほど劇的な環境変化を与えると、水田の生物の多様性など望むべきもありません。機械化に合わせ苗づくりも工業化したため、日本の稲作は農薬頼りになりました。100年後も子どもたちにメダカがいる水田を残したいと思います。この田んぼを発泡スチロール箱に再現した不耕起栽培のミニ田んぼビオトープを学校の環境教育教材として普及しています。2002年より、本当の安全なコメづくりを学んでもらうために「自然耕塾」をはじめました。塾の卒業生には実践クラスのオリザ塾で技術を教えています。

また、消費者、農家とともに田んぼの生きもの調査に取り組み、田んぼ環境の復元を考えています。水田に住むイトミミズが糞を出し、トロトロ層をつくり、雑草を抑草し、イネの生長を促進することがわかってきました。これらの研究から不耕起栽培と冬期湛水水田の組み合わせと生物を外から移入しない「生物資源型農業(保護ではなく、地域の生きものたちが生きられる環境を整える農業)」の確立をめざしています。

生産者向け、一般向けの各種講座、研修会を開いて講師をしています。農家は生産者(単に生産する人)ではなく農家(農作物を育む家業の人)への意識改革ができるよう、消費者は育みたいのちを受け取る人となるよう、語りかけることを続けています。



### 会場へのアクセス



### お願い

準備等の都合があるため参加される方は  
事前にご連絡をお願いします。

連絡先：多治見市役所農林商工課

<農林グループ> 担当：山田・佐藤

TEL 0572-22-1111 (内線 353)

(有) 甘原ええのお

TEL/FAX 0572-23-7863 山田照次

尚、当日運営費として会費 1,000 円を徴収  
させていただきますのでよろしく御願います。